

■ 今年度の研究

小中一貫教育研究主題

学ぶ喜びを実感できる教育活動の創造
～伝え合い、学びあいのできる言語活動の工夫を通して～

☆研究仮説

- 学ぶ意欲を引き出す「めあて（課題）」の設定、伝え合い・学び合うことができる「言語活動」の工夫、本時の学びを実感できる「まとめ（振り返り）」の3点を意識した授業づくりを行い、1時間の授業の中で『わかる』『できる』を実感させることができれば、学ぶ喜びを実感し、確かな学力を身に付けることができるであろう。
- 教科の学習だけでなく、あらゆる活動の中で、自己の成長を実感できるような振り返りや評価を行うことで、児童生徒は、成就感や達成感を味わい、自尊感情を高め、自他を大切にす豊かな心を育むことができるであろう。

本校研究主題

わかる楽しさを味わい、主体的に課題を解決していこうとする子どもの育成
～算数科学習を通して～

☆研究仮説

問題解決の場で、自力で考えようとする課題を設定し、伝え合い・学び合うことができる「言語活動」を工夫すれば、わかる楽しさを味わい、主体的に課題を解決していこうとする子どもが育つであろう。

本校では、「わかる楽しさを味わい、主体的に課題を解決していこうとする子どもの育成」をテーマに、算数科に教科を絞り、研究を進めてきた。

昨年度の研究の成果として、「問題の設定において子どもに興味・意欲を持たせることができた。」「実際に操作したり視覚的にとらえたりできる活動や提示物が考えを持つための支援になった。」「ペアやグループトークは、考えを深めたり自分の考えを違うものを知ったりするために有効であった。」ことが挙げられた。

課題として、「既習事項や学習の進め方の確認」「ペアやグループトークの時間の確保」「話し合いの仕方やルールの徹底」が挙げられた。次年度は、『主体的に課題を解決する力』『情報を整理する力』『考えを深める手立て』の3つを深めていってはどうか。」「話し合い活動のマニュアルを作ってはどうか。」ということが挙げられた。

主体的に課題を解決していくためには、問題をつかみ、見通しを持つことが重要であり、考えることが明確にわかる課題の設定が必要である。

情報を整理するには、既習事項やわかっていることにより見通しを持ち、まず、自分の考えを表すことから始まる。そのことが、考えの交流で類似点や相違点を見つけることやよりよい方法を見つけることにつながる。これは考えを深めることでもある。学習したことの整理も考えを深めることであるととらえ、まとめの場面も大切にしていきたい。

そこで、今年度は、研究仮説を「問題解決の場で、自力で考えようとする課題を設定し、伝え合い・学び合うことができる『言語活動』を工夫すれば、わかる楽しさを味わい、主体的に課題を解決していこうとする子どもが育つであろう。」と設定した。

「自力で考えようとする課題を設定」とは、見通しを持たせ、考えることが明確にわかる課題の設定である。このことは、考えを持ってない子どもへの支援になる。

「伝え合い・学び合う」ことができる『言語活動』の工夫とは、ペア活動・全体交流・まとめの場面をさす。自力解決後の自分の考えを説明するペア活動を行い、自分の言葉で相手に伝わるよう説明できるようにさせたい。解決方法までたどり着かない場合も考えられるが、その場合はどこまで考えたかを伝えられるようにさせたい。全体交流の方法は様々考えられるが、提示のさせ方や友だちの意見の引き受けさせ方を工夫し、互いの考えとその理由を交流することで、考えを比較・判断し、見直したり深めたりさせたい。まとめの場面では子どもから出た言葉をいかしながらまとめる、練習問題に取り組んだ際にまとめの言葉を使いながら確認のペア活動を行う等して、学習したことの定着をはかりたい。

☆研究内容（重点）

①自力で考えようとする課題の設定

課題までの見通しを大切にし、どのような課題を設定すればよいか。

②言語活動の場の工夫（書く・話す・聞く）

自分の考えを説明する場面・全体交流をする場面・まとめをした後の練習問題のやり方を説明する場面と、考えられる言語活動の場のいずれを設定するか、また、どのような形で活動させるか。

③学びを実感できるまとめと振り返りの場の設定

■ 基本的な学習過程

